

大学連携型都留市版CCRC

「生涯活躍のまち・つる」 について

ひと集い 学びあふれる 生涯きらめきのまち つる



1. 「都留市」とは

- ◆山梨県の東部
- ◆人口 31,195人 (H28.9.1)
- ◆市民の約10人に1人が公立大学法人都留文科大学の学生
- ◆リニア実験線・小水力市民発電所「元気くん」のあるまち



- ◆新宿から90km
- ・電車で約80分 車で約60分
- ・JR,成田エクスプレスも乗り入れ
(都内・成田まで一直線)
- ・市内を富士急行線が横断 (大月市から富士山へ)

2. 都留市の「弱み（課題）」

①人口減少と高齢化

- 都留市の人口は、2000年にピーク(35,513人)を迎え、その後は減少。
- リニア実験線工事期（2000年初期）を除き、社会減が継続
- 高齢化率は26.9%（H28.3末住基人口より算出）
⇒市民の健康寿命延伸に向けたまちぐるみの事業の推進が急務

②地場産業の停滞と活気を取り戻せない中小企業と農林産業

- 機械金属工業の停滞感
- 中小零細事業者の後継者不足
- 遊休農地の拡大（鳥獣被害による農作放棄、農業の後継者不足）

③年間約1,500万人の観光メッカ富士山エリアから取り残されたまち

- 富士山の麓に位置し、首都圏にもかかわらず東京方面から富士五湖への通過地点
- 世界遺産でもある富士山エリアに訪れる年間約1,500万人の観光客（観光事業）の外側
- 豊かな自然、清冽な水、城下町としての古き良き時代が薫るまちなどの知名度不足

3. 都留市の「強み（地域特性）」

①地理（環境）的な「強み」

- 都心からわずか90km
 - ・電車で80分（成田EX・JR直接乗り入れ）、車で60分
- 地価が安い
- 酷暑地でも、酷寒地でも、豪雪地でもなく、程よく過ごせる気候
- 山⇒富士山・都留市21峰 /川⇒桂川・6つの溪流
 - 水⇒富士山湧水（十日市場・夏狩湧水群⇒平成の名水百選）

②歴史的な「強み」

- 城下町気質を持ち合わせた心穏やかな人間性
- 神社仏閣が多い神仏や宗派を超えた心和む空間

③教育的な「強み」

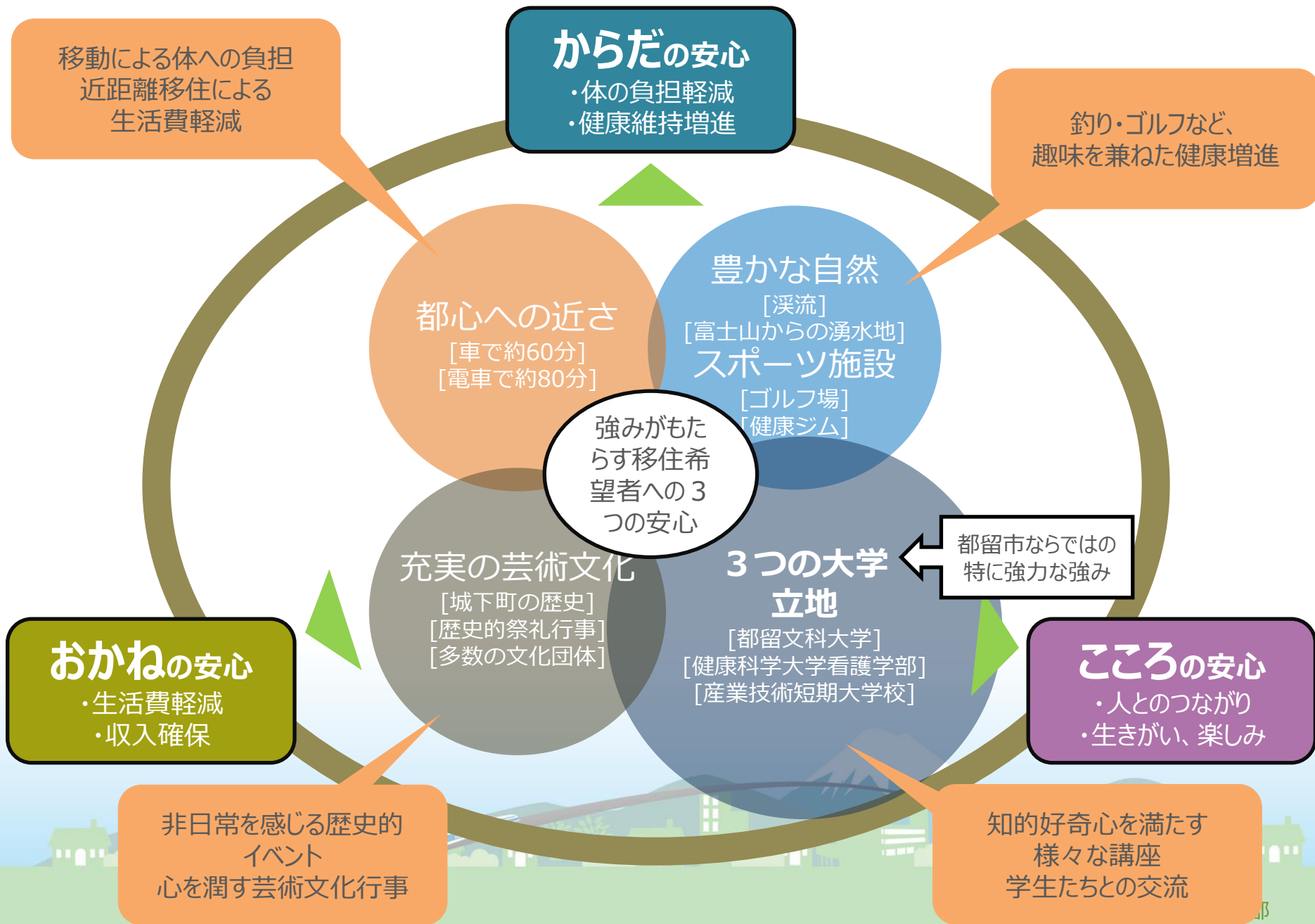
- ◎市内に存在する3大学との連携による生涯学習などのプログラムの実施
 - ・都留文科大学【歴史ある教員養成大学・全国から約3,000人・OBなど全国に約30,000人以上】
 - ・健康科学大学看護学部【H28年4月開学・都留市立病院と連携・看護学部看護学科320名】
 - ・県立産業技術短期大学校【H25年開校・県内初の理工系短期大学校・隣接の県内最大高校と連携】
- 生涯学習施設を活用したさかんな学びと交流の実践（ふれあい全国俳句大会・市民第九演奏会など）

④健康的な「強み」

- 健康科学大学看護学部が実施する研究事業との連携による健康寿命の延伸
- 2つの球場、6つのゴルフ場（都市圏から毎日多くのプレイヤー）を活用した運動による余暇活動の充実
- 市内各所に設置を計画している「居場所」や「健康ジム」による健康維持や介護予防



4. 「強み」が与える『3つの安心の担保』



5. 「生涯活躍のまち」への追い風

住所地特例

平成27年4月より制度改正

介護保険・医療保険は、住所地の市町村が保険者となることが原則ですが、高齢者が介護保険施設等に入所するために移住した場合には、移住前の市町村が保険を負担するという制度が運用されています。



A市の自宅

移住



B市の生涯活躍のまち施設

項目	A市	B市
住所	—	○
住民税	—	○
行政サービス	—	○
介護・医療保険の保険者	○	—
介護・医療保険料	○	—
保険給付	○	—

※平成27年4月より、有料老人ホームに該当するサービス付き高齢者住宅についても住所地特例の対象に加えられた。

6. 「生涯活躍のまち・つる」の可能性と導入効果

「生涯活躍のまち・つる」構想推進の背景

◆国全体のまちづくりの課題と現状

- ・人口減少・超高齢化・東京一極集中
- ・都市部の2025年（介護）問題
- ・東京圏居住者の移住希望
- ・**住所地特例の拡大**
- ・**日本版C R C構想の検討**

◆市の課題の解決

- ・人口減少と高齢化
- ・産業活性化
- ・交流産業の空洞化

◆市の重点施策

- ・**「シルバー産業」の構築・推進**
- ・高齢者の「居場所」の整備
- ・「健康ジム」の整備
- ・大学との連携

「生涯活躍のまち・つる」

【手段・重要なまちづくりの施策】

「シルバー」から
ずっと光り輝く
「プラチナ」へ



短期的効果

【事業への期待】

- ◎ **人口減対策・地域経済活性化**
- ◎ **雇用創出・ビジネスチャンスの創出**
- ◎ **税収の増加**
- ◎ **高齢者にやさしいまちづくりのPR**

長期的効果

【まちづくりへの期待】

- **まちぐるみの健康増進**
- **新たな地域の担い手の誕生**
- **大学連携の強化**
(地域貢献・知的資源活用)
- **地域資源の再生**

7. これまでの取組

平成25年度	<ul style="list-style-type: none">・シルバー産業の構築・推進 介護事業者・医療機関と連携して様々なタイプの介護施設を誘致し、市民はもとより首都圏からの高齢者の受入を図り、都留市をシルバー産業の都市として雇用を創出
平成26年度	<ul style="list-style-type: none">・首都圏自治体や介護関連企業へのトップセールス実施 <p>H26.12 国「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定 ⇒H27.2「日本版CCRC構想有識者会議」設置 「シルバー産業の構築・推進」から「生涯活躍のまち・つる」事業へ</p>
平成27年度	<ul style="list-style-type: none">・庁内に「都留市版CCRC推進班（各プロジェクトチーム設置）・地域おこし協力隊の活用（1名）・「大学コンソーシアムつる」の立ち上げ・「都留市版CCRC構想研究会」立ち上げ・地域住民生活等緊急支援交付金活用（H26からの繰越明許） ⇒「生涯活躍のまち・つる基本計画」策定・地域住民生活等緊急支援交付金上乗せ交付金活用 ⇒「生涯活躍のまち・つる実施計画」策定 ⇒東京駅八重洲口の「生涯活躍のまち移住促進センター」へブース出展 ⇒市内で「都留市移住・定住相談センター」設置 ⇒お試し居住開始 ⇒移住イベント等への積極的な出展
平成28年度	<ul style="list-style-type: none">・地方創生加速化交付金活用（H27からの繰り越し明許） ⇒（予）「生涯活躍のまち・つる複合型居住プロジェクト実施計画（仮称）策定」 ⇒（予）官民連携事業実施アドバイザー等・地域再生計画、地方創生推進交付金 申請中

8. 国の支援体制

国の「生涯活躍のまち」支援チームの対象とする地方公共団体（先行事例）に選出

平成28年6月選定



Copyright(C) T-worldatlas All Rights Reserved.

選定対象の考え方

- ①構想の推進意向
- ②一定の熟度
- ③多様性

の観点から検討対象とする構想を選定したもの。

支援チームの下にワーキングチームを設置し、生涯活躍のまちに関する施策の在り方等について検討を行う。

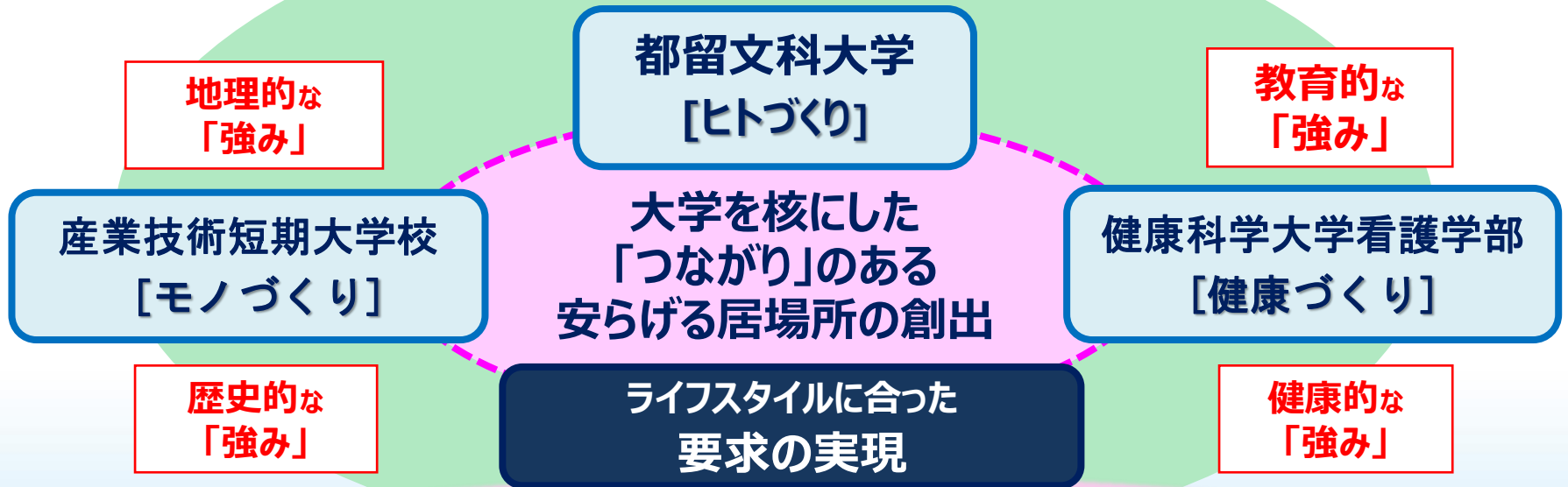
事業運営の工夫や資金調達の観点から金融関係機関をオブザーバーに追加。



9. 「生涯活躍のまち・つる」構想のコンセプト

- ① まちの「強み」を生かした大学連携型「生涯活躍のまち・つる」
- ② 民間による高齢者居住空間・支援サービスの提供

住み替え形態	大都市移住型 or 近隣転居型
立地	まちなか型 or 田園地域型
地域的ひろがり	タウン型 or エリア型



住み続けたいまちづくりのための「手段」
⇒まち全体の事業推進による「生涯活躍のまち・つる」

10. 構想実現のための庁内の取組

「生涯活躍のまち・つる推進班」

① 居住環境整備プロジェクト

- ・事業主体の検討、誘致
- ・地域資源（空き家・団地）の調査、選定
- ・都市圏との連携に向けた情報収集、先進地視察

② 大学連携プロジェクト

- ・都留文科大学と共働した「学び」と「交流」のプログラムの実践
- ・健科大、産短大の専門的な人材、設備を生かした研究や市民参加プログラムの開発
- ・横浜国立大学との包括連携、早稲田大学の研究協力による事業推進

③ 地域連携・生涯学習プロジェクト

- ・まちづくり地域活動等への参加促進
- ・地域組織や自主組織等とのマッチングによる受け込みの促進
- ・高齢者の役割発掘
- ・子どもや若者などの他世代との交流
- ・生涯学習、公民館活動などへの参加促進
- ・遊休農地を活用した農業体験や農業支援などによる地域との交流

④ 健康長寿支援プロジェクト

- ・自治会館等のストック活用による「居場所づくり」や「健康ジム」の整備
- ・健康科学大などの教育研究機関との連携による健康づくりプログラムの開発
- ・早稲田大学との連携による健康づくりプログラムの実践
- ・健康マイレージ事業などの創設・運用

⑤ 移住定住促進プロジェクト

- ・移住相談、広報等による移住の促進
- ・移住定住促進策の検討
- ・空家活用やお試し居住等の移住のきっかけづくり

11. 移住者・入居者の確保

都心 平成27年10月開設



生涯活躍のまち
移住促進センター

東京都中央区八重洲
1-5-15 田中八重洲ビル
5F

火～土 開館
10:00～17:30

都留市 平成27年10月開設



都留市移住・定住
相談センター

都留市上谷1-2-3

月～金 開館
8:30～17:15

※この施設を活用して、
お試し居住も実施中

移住元と移住先を
ホットラインで直結

総合的にPR

都留市の強み

3つの大学
立地

[都留文科大学]
[健康科学大学看護学部]
[産業技術短期大学校]

都心への近さ

[車で約60分]
[電車で約80分]

豊かな自然

[溪流]
[富士山からの湧水地]
スポーツ施設

[ゴルフ場]
[健康ジム]

充実の芸術文化

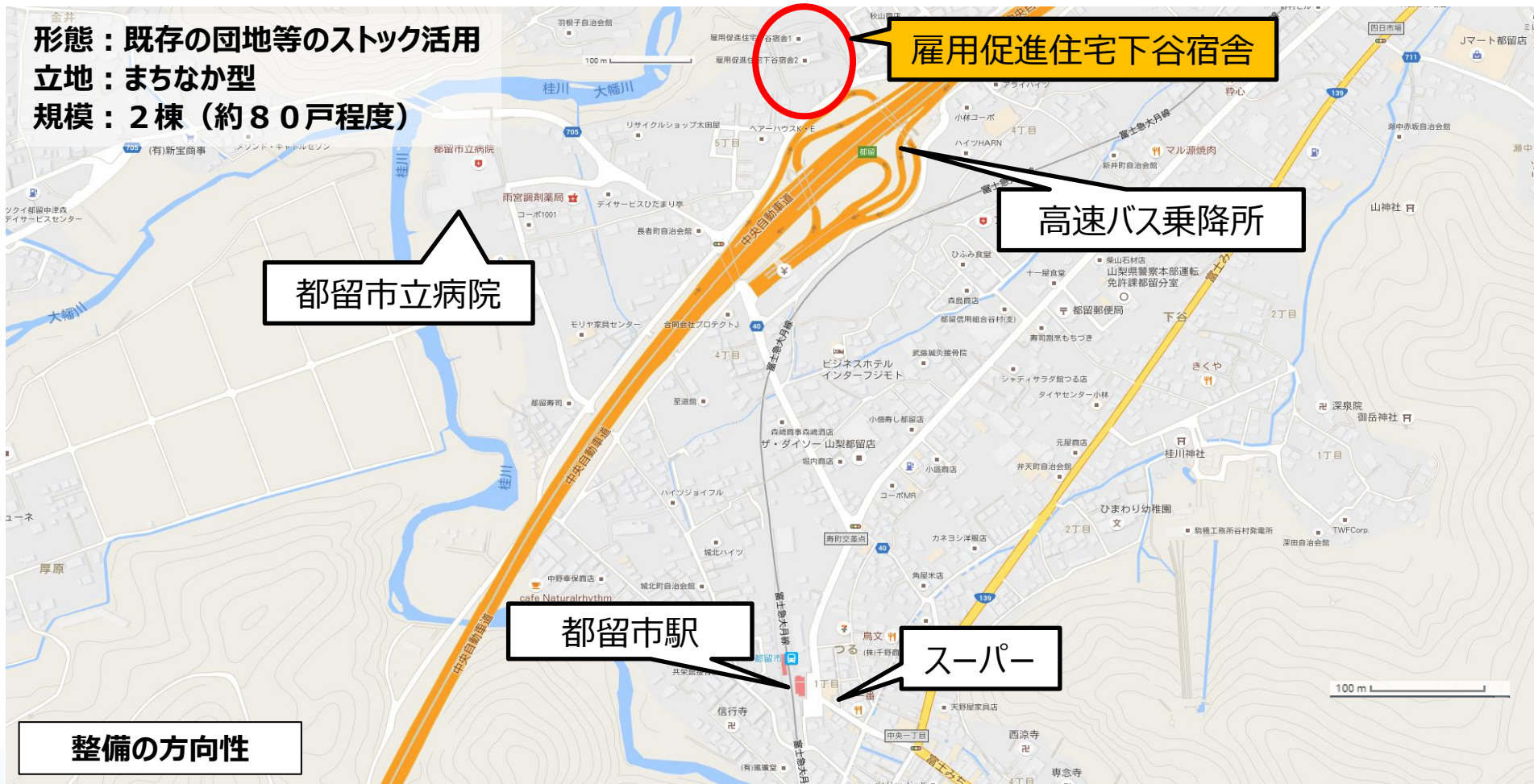
[城下町の歴史]
[歴史的祭礼行事]
[多数の文化団体]

12. 2つのプロジェクトと位置図



13. 単独型居住プロジェクト

形態：既存の団地等のストック活用
 立地：まちなか型
 規模：2棟（約80戸程度）



- 選定事業者に施設を貸し出し、事業者がサ高住に改修 **（国の補助制度の積極的な活用）**
- 国民年金受給世帯でも入居できる費用モデルを設定予定
- 市内高齢者向けの一定の優先入居枠を設定
- 食堂などの地域交流拠点を併設
- 健康科学大学との連携を検討
- 賃借料や固定資産税額の軽減支援策を検討

14. 複合型居住プロジェクト

形態：企業誘致による事業地開発

立地：都留文科大学近隣

規模：5棟程度（約200戸）



- ・市有地を選定事業者へ貸し出し、事業者が介護関連施設を整備。複数施設で構成（国の補助制度の積極的な活用）
- ・サ高住は一般的な厚生年金世帯が入居できる費用モデルを設定予定
- ・都留文科大学教員・学生との交流拠点を整備
- ・食堂、サロン・カフェなどの交流空間を設置
- ・賃借料や固定資産税額の軽減支援策を検討

15. 各プロジェクトのスケジュール

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	以降 ～
シルバー 産業構築	→							
単独型			<ul style="list-style-type: none"> 基本計画の策定 実施計画の策定 	<ul style="list-style-type: none"> 施設購入 事業者公募 事業者決定 	[事業者] 設計・改修・開所		入居者の募集 運営	
複合型				<ul style="list-style-type: none"> お試し居住実施 移住関連施設整備(2カ所) 	<ul style="list-style-type: none"> 実施計画策定 用地購入(一部) 造成 等 	<ul style="list-style-type: none"> 事業者公募 事業者決定 	[事業者] 設計・整備・開所	
民間開発			<ul style="list-style-type: none"> 移住イベント等参加 					
空家活用			<ul style="list-style-type: none"> 各組織立ち上げ 等					